

ひかりのこ

7月園便り

聖ミカエル幼稚園

2019年6月18日

月主題：試す

「ことばを育てる」

1学期も半ばとなり、運動会に向けて、子どもたちはたくさん体を動かして活動しています。お家に帰って、保護者の皆さんにどんなお話をしているでしょう。「今日は、綱引きで勝ったんだよ。」「お遊戯は、お母さんにはまだないしょだよ。」「かけっこしたよ。」と、たくさんお話してくれるお子さんもいれば、「知らない。」「忘れた!」というお子さんもいることでしょう。

年少さんはだんだんと、おおまかな幼稚園の出来事は伝えられるようになっていきます。年中さんになるともう少し詳しくお話できるようになっていきます。そして年長さんになると「悲しかった。」「楽しかった。」という気持ちを大まかではあるけれど話せるようになってきます。ただ、どうして「悲しかった」のか、何が「いやだった」のかはまだ上手に言葉で表現できません。そんな時は大人が子どもの心に寄り添って「こうだから悲しかったのかな。」「こんな風にされたからこんな風に嫌だったんだね。」と助けてあげなければいけません。

お友達に「嫌い」とか「あっち行って」という言葉をぶつけ、悲しい思いをさせる子もいます。自分の発した言葉によって相手がどんな風を感じるのかをまだ自分のことのように想像できないのです。「そんな言葉を言ったらだめよ。〇ちゃん泣いてるでしょ。」と大人に言われて、仕方なく「ごめんね。」はするけれど、なかなか本人の中では腑に落ちていないことがあります。こんな時は、その言葉を発した子を引き寄せて、抱っこして、うんとその子を受け入れたうえで「嫌い、あっち行ってと言われたらどんな感じがする? どう思う? 悲しいよね?」と大人がとっても悲しい顔をして伝えなければなりません。大人が気持ちを体で表現して伝えるのです。

もうかなり前に卒園した男の子がお友達に痛いことをして、それを「自分はやっていない。」と言い張ったことがあります。私はその子を抱っこして本当にやっていないのかを優しく聞くと、しばらくして「本当はやってしまったの。」と教えてくれました。私は本当のことを言えたその子をうんとほめて、その子のお母さんにも来てもらい、それを伝えました。そうするとお母さんは我が子を叱るのではなく、じーっと見つめて、ツーンと涙を流したのです。ああ、素敵なお母さんだなあ、と私は感じました。子どもの心に「ああ僕がやったことはこういうことなんだ。」という思いがストン、と落ちたのではないかなあ、と感じました。その子は、

お母さんの悲しい顔を見て、大きな声で怒鳴られる数十倍も、たくさんのお話を聞いたことでしょう。

「ことば」は生活そのものです。「ことば」だけを育てようとしても「こころ」が伴わなければ「ことば」は育ちません。「こころ」はそばにいる大人が、感情豊かに笑ったり泣いたり感動したり、社会の不正に対して怒ったりする中で育っていきます。文字を書いたり、読んだりする前に大人と子どもが本当の意味で共にいて、心を通わせることが必要なのではないか、と思います。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「エンジェルHIROBAのこと」

幼稚園の北玄関の隣りに、聖ミカエル国際青年寮の建物があります。29年前、外国人留学生と日本人学生の共同生活のために建てられ、北大生を中心に、多くの学生に利用されました。数年前から外国籍の寮生がいなくなり、教会としては、その役割を終えたと判断し、今年の3月末をもって閉寮となりました。

この建物を今後どのように利用するか、昨年からは教会は幼稚園の意見も聞きながら、ずっと考えてきました。いろいろな意見が出され、それを集約した結果、ひとまず大きな改修は行わず、基本は現状のまま使うことになりました。寮母としてご奉仕いただいた尾崎さんも、引き続き奥の居室に住まれ、清掃、管理をしてくださいます。1階は広いリビングがあり、ここは教会、幼稚園関係の集まりに利用できます。コーヒーサーバーも導入され、おいしいコーヒーを200円で提供、お子さんの送迎時などにカフェとして安らぎの空間にいただければと願っています。2階は10室あり、日曜学校の部屋、応接室、宿泊可能な部屋が2室、災害時の備蓄品を保管する部屋もあります。建物の名称はアンケートの結果、「エンジェルHIROBA」となりました。

6月23日にはお披露目会を行い、正式に運用が始まります。29年前に神さまから与えられた建物が、大天使ミカエルに守られた教会、幼稚園とともに、エンジェルHIROBAとして使うことが許され、たくさんの方々の方々に繋がることを願っています。

チャブレン 司祭 下澤 昌